

長岡京市 上下水道ビジョン

令和2年～令和11年度

令和元年8月

長岡京市上下水道部

はじめに

長岡京市の上下水道事業は、水道事業が昭和 38 年度に地下水を水源とし給水を開始しました。その後、人口の増加や企業の工場進出等から水需要が急激に増加したことから、平成 12 年度に京都府営水道の受水を開始し二元水源による安定給水に努めてきました。一方、下水道事業は、昭和 54 年度に汚水事業の供用を開始して以来、区域を拡大し令和 2 年度には整備が完了する予定です。また、雨水事業は急速な都市化により雨水の地下浸透や保水能力が著しく低下してきたため、浸水被害等に対応すべく昭和 60 年度に都市計画決定し整備を進めてきました。



しかし、近年では、節水機器や意識の向上、産業構造の変化などに伴い、水需要の減少傾向が続く中、施設の更新や耐震化工事をはじめ、昨今の自然災害から市民の安全安心を確保するため、浸水被害の軽減を図る雨水事業をしっかりと推進していく必要があり、今後も厳しい経営状況が続くと想定されます。

このような諸課題を踏まえ、本市総合計画に掲げる将来都市像「住みたい 住みつづけたい 悠久の都 長岡京」の実現に向け、令和 2 年度から令和 11 年度までの上下水道事業の進むべき方向性を、「経営戦略」の視点で長岡京市上下水道ビジョンを取りまとめました。

今後、更なる経営の効率化に努め、将来にわたり安定した上下水道事業に取り組んでまいりますので、市民のみなさまの一層のご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、このビジョンの策定にあたり、貴重なご意見やご提言をお寄せいただきました多くの市民の皆さまをはじめ、長岡京市上下水道事業審議会の委員の皆さま並びに関係各位に心から感謝申し上げます。

令和元年 8 月

長岡京市長 中ノ路 健吾

目 次

はじめに

総論

1 策定の趣旨	1
2 上下水道ビジョン（経営戦略）の位置づけ	2
3 進行管理	3

第1編 水道事業

第1章 水道事業の沿革	4
-------------------	---

第2章 水道事業の現状と課題	6
----------------------	---

第1節 安全

1 水源の保全と確保	
(1)二元水源の確保	7
(2)地下水質の常時監視	9
2 水質管理の充実と強化	
(1)水安全計画の継続運用	10
(2)快適な水道水の供給	11
3 鉛製給水管の解消	
(1)鉛製給水管の取り替え促進	13

第2節 強靱

1 耐震化の推進	
(1)施設の耐震化	14
(2)基幹管路の耐震化	15
2 施設の更新	
(1)浄水施設の更新	16
(2)主要幹線管路の計画的更新	17
(3)漏水調査の継続	18
3 危機管理体制の整備と強化	
(1)応急給水への対応	19
(2)危機管理マニュアルの充実	20
(3)災害時連携の充実	21

■ 第3節 持続

1 経営基盤の強化

(1)適正な料金算定と料金体系の見直し	22
(2)遊休地の利活用	24
(3)多様な形態の広域化の検討	25
(4)エネルギーの有効利用	26
(5)アセットマネジメント手法による資産管理	27

2 組織体制の強化

(1)適正な人員確保と人材育成の充実	28
(2)法令遵守の推進	30

3 お客様サービスの充実

(1)お客様ニーズの把握による利便性の向上	31
(2)広報活動の充実による情報公開の推進	32

第3章 今後の水道事業環境について

1 人口と水需要の見込み	33
2 管路の更新	33
3 職員の現状	33

第4章 水道事業の具体的な取り組みについて

■ 第1節 安全

1 水源の保全と確保

(1)二元水源の確保	39
(2)地下水質の常時監視	40

2 水質管理の充実と強化

(1)水安全計画の継続運用	40
(2)快適な水道水の供給	41

3 鉛製給水管の解消

(1)鉛製給水管の取り替え促進	42
-----------------------	----

■ 第2節 強靱

1 耐震化の推進

(1)施設の耐震化	43
(2)基幹管路の耐震化	44

2 施設の更新

(1)浄水施設の更新	45
(2)主要幹線管路の計画的更新	45
(3)漏水調査の継続	46

3 危機管理体制の整備と強化	
(1)応急給水への対応	47
(2)危機管理マニュアルの充実	47
(3)災害時連携の充実	47
第3節 持続	
1 経営基盤の強化	
(1)適正な料金算定と料金体系の見直し	48
(2)遊休地の利活用	49
(3)多様な形態の広域化の検討	49
(4)エネルギーの有効利用	50
(5)アセットマネジメント手法による資産管理	50
2 組織体制の強化	
(1)適正な人員確保と人材育成の充実	51
(2)法令遵守の推進	51
3 お客様サービスの充実	
(1)お客様ニーズの把握による利便性の向上	52
(2)広報活動の充実による情報公開の推進	53
第5章 経営戦略	
1 経営戦略とは	54
2 現状分析による重点取り組み	59
3 経営戦略の具体的試算	61
4 経営戦略による収支計画	65

第2編 下水道事業

第1章 下水道事業の沿革	69
--------------------	----

第2章 下水道事業の現状と課題

第1節 下水道（污水）事業

1 整備状況	70
2 污水施設	
(1)管路	72
(2)マンホールポンプ	75
(3)処理場	76

第2節 下水道（雨水）事業

1 整備状況	78
2 雨水施設	
(1)今里雨水貯留施設	80
(2)神足ポンプ場	82
(3)いろは呑龍トンネル	84

第3節 その他施設等

1 災害用マンホールトイレ	86
2 雨水貯留浸透施設	87
3 雨水貯留タンク	88

第4節 経営の状況（污水事業を中心に）

1 収支のしくみ	89
2 収入（污水事業）	
(1)下水道使用料	90
(2)一般会計繰入金	92
3 支出（污水事業）	
(1)企業債と元利償還	94
4 経営分析	96

第5節 組織体制

97

第3章 今後の下水道事業環境について

1 人口と污水有収水量の見込み	99
2 下水道事業施設の整備	99

第4章 下水道事業の具体的な取り組みについて

第1節 安全安心

1 浸水対策	102
(1)いろは呑龍トンネル接続に伴う整備	103

(2)犬川雨水幹線整備	104
(3)小畑川関連整備	105
2 地震対策	
(1)雨水事業	107
(2)污水事業	107
3 その他対策	
(1)防災（内水）ハザードマップの更新	108
(2)災害用マンホールトイレ	108
(3)雨水貯留タンク	109
第2節 環境保全	
1 水洗化率の向上	110
2 管路整備	110
3 マンホールポンプ整備	113
4 不明水調査と改善	113
第3節 健全経営	
1 適正な下水道使用料の検討	114
2 組織体制の強化	116
3 広報活動の充実	117
4 広域化の取り組み	117
第5章 経営戦略	
1 経営戦略とは	118
2 現状分析による重点取り組み	124
3 経営戦略の具体的試算	126
4 経営戦略による収支計画	130

参考資料

・上下水道に関するアンケート調査結果概要（平成29年9月実施）	134
・諮問書	152
・答申書	153
・用語説明	159

総 論

1 策定の趣旨

長岡京市の水道事業は、昭和38年の給水開始以来、安全で安心な水道水を安定して供給するため、市の発展とともに拡張事業を行ってきました。

この間、地下水汲み上げ量の適正化と二元水源の確保のため、平成12年から府営水道の受水を開始しました。しかし、その一方で、新たに多額の受水負担が生じ、水需要の減少と相まって事業経営は非常に厳しい状況に陥りました。加えて、創設期から拡張期に整備された施設の更新や耐震化など、取り組むべき課題が山積していたことから、平成17年2月に「長岡京市水道事業経営改善計画」を策定し、水道事業経営の健全化に取り組みました。また、平成21年6月には水道事業を取り巻く環境が大きく変化するなか、水需要が年々減少し料金収入が伸び悩む中での老朽化した施設の更新や再構築、地震など災害への備えなど、課題を解決するため「長岡京市水道ビジョン（平成22～31年度）」を策定し事業運営を行っています。この計画期間は間もなく終了しますが、将来にわたり、安定して供給を行っていくため、次期のビジョンを打ち出し、事業を継続して着実にやっていく必要があります。

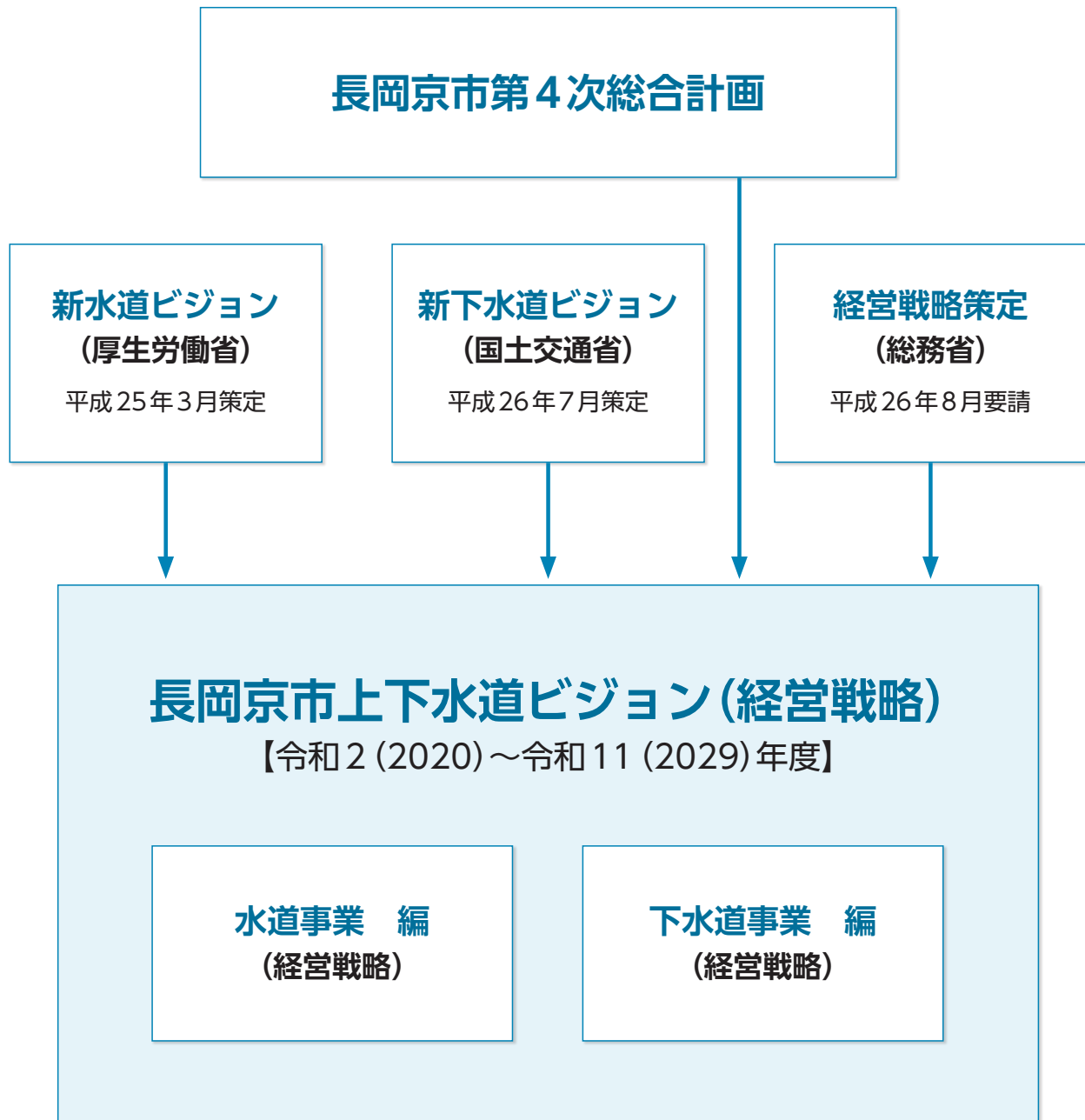
一方、下水道事業は、污水事業で、「京都府桂川右岸流域関連長岡京市公共下水道事業」として、昭和49年10月に事業認可を得て着手し、昭和54年から供用を開始しました。その後、集中的に面的整備を行い、現在ではほぼ完了しています。今後は、ストックマネジメント計画に基づく施設の維持管理や更新を計画的に行い、衛生的で快適な下水道環境を維持していく必要があります。雨水事業では、浸水被害の多いところから局地的に整備を行ってきましたが、昭和60年12月に事業認可を追加し、23の排水区に分け整備を進めているところです。しかし、近年は、記録的な集中豪雨など、予測できない自然災害が発生していることから、その対応が求められています。

また、事業運営面では、経営状況を明らかにするため、平成29年度から下水道事業にも、地方公営企業法を全部適用し、公営企業会計による運営を行っています。これにより、下水道事業単独での収支や資金の状況など財務状況が明確になりました。

このような中、総務省からの経営戦略の策定要請も踏まえ、現水道ビジョンの更新に合わせて、下水道ビジョンも加えた「長岡京市上下水道ビジョン（経営戦略）」として策定しました。

2 上下水道ビジョン（経営戦略）の位置づけ

「第4次総合計画」を最上位計画とし、厚生労働省の「新水道ビジョン」、国土交通省の「新下水道ビジョン」及び総務省の「経営戦略」の策定方針を踏まえて策定しています。



3 進行管理

上下水道ビジョン（経営戦略）に掲げる目標の達成に向け、水道事業ガイドライン業務指標、下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン等の指標及び経営比較分析表を踏まえ、毎年度PDCAサイクルによる進行管理を行います。

また、5年毎に上下水道ビジョンを見直すため、長岡京市上下水道事業審議会に諮り、専門的な視点及び市民の視点から意見をいただきます。

